



シリーズ！ 活躍する2017年度国際活動奨励賞受賞者 その2

ウメシュ アニール

株式会社NTTドコモ 無線アクセス開発部 担当課長
umesyu@nttdocomo.com
<https://www.nttdocomo.co.jp/>



HSUPA、LTE/LTE-A、及び5Gの標準化において、無線I/Fプロトコルと無線ネットワークアーキテクチャの技術議論を主導して仕様策定を行うとともに、ラポータ等のとりまとめ役を務め、3GPP標準化活動に対する多大な貢献を行っている。

HSPA、LTE/LTE-Advancedの標準化から、5Gの標準化へ

この度は、国際活動奨励賞という名誉な賞を頂き大変光栄です。日本ITU協会の皆様、関係各位に御礼申し上げます。私は、2002年から3GPPの標準化会合に参加し、少し離れていた時期もありますが、先の8月の会合が通算で81回目の3GPP会合への参加となりました。本稿の執筆にあたり、これまでの活動を振り返ってみたいと思います。

私が会合に参加を始めた頃、3GPPではW-CDMAの標準仕様を拡張するHSPAの検討を行っており、下りリンク向けのHSDPAと上りリンク向けのHSUPAの標準仕様を、それぞれ2002年と2004年にリリースしました。私は、HSUPAの無線インタフェースに関する技術提案を行っていました。

その後3GPPでは、2007年にLTEの標準仕様を、さらに、2010年にLTE-Advancedの標準仕様をリリースしました。LTEの標準化で、私は、標準仕様の編集作業を担うエディタの役割も務めさせていただき、新しいシステムの基礎検討から仕様完成まで一通りの活動に携われたことはとても良い経験でした。特に、各社が様々な主張をする中におい

て標準仕様をまとめるには、技術力と交渉力の双方が重要で、交渉では自分の主張をわかりやすく伝えることと、相手の主張の真意を背景も含めて理解することが重要だと学びました。

現在、3GPPは5Gの標準仕様を策定しているところで、2017年12月に、5Gの新しい無線であるNR (New Radio) をLTEと組み合わせて提供するNRのノンスタンドアロン仕様をリリースする予定です。その半年後の2018年6月には、NRを単独で提供することを可能とするNRのスタンドアロン仕様もリリースする予定です。5Gは業界を超えて関心を集めており、高い要求条件の実現と多様なユースケースへの対応が求められています。私は無線アクセスネットワークのアーキテクチャとネットワークインタフェースを検討するグループである3GPP TSG RAN WG3においてNR検討作業のラポータ (取りまとめ役) を務めておりますが、これらの要求条件に応えられる5Gの標準仕様を完成できるよう尽力してまいります。

おおつき めみこ
大槻 芽美子

株式会社NTTドコモ 経営企画部企画調整室 主査
ootsukime@nttdocomo.com
www.nttdocomo.co.jp



国際通信規制のエキスパートとして、継続的な情報収集と適切な情報分析により、ITU等の料金・通信政策の国際標準化活動に大きく貢献している。特にWTSA-16においてはドラフティング議長として決議の作成を主導するなど多大な功績を残した。

規制・政策の標準化に向けたチャレンジ

この度は、国際活動奨励賞を頂き大変光栄に存じます。日本ITU協会の皆様をはじめ、これまでの活動を支えてくださった皆様に心より御礼申し上げます。

私は2009年より、ITU-T Study Group 3を中心とした標準化活動に携わっています。SG3はITU-Tの中で唯一、技術的でない分野の課題を取り扱う研究グループです。従来は主に通信の料金精算や料金設定に関する標準作成を行っていましたが、ここ数年はICTを取り巻く幅広い規制や政策に関する課題の研究が増加しています。問題が複雑化する中、規則や政策の標準化とはどうあるべきか、その重要性和難しさを改めて感じながら、会合に参加しているところです。

最近では、2016年10月～11月にチュニジアで開催された世界電気通信標準化総会（WTSA-16）に日本代表団の一員として参加し、多くの決議の審議、作成に携わりました。そのうちの一つ「電気通信/ICTサービス利用者の保護に関する決議」については、ドラフティング議長を務めるという貴重な機会に恵まれました。決議の要否やその内容については大きく意見が分かれており、限られた期間内に成果を出せるか不安でしたが、国内外の多くの方から助言や協力をいただいたおかげで、無事に決議を完成させ承認を得ることができ感謝しています。

国際会議での交渉を成功させるためには、継続して会合に参加することで諸外国のメンバーからの信頼を得て、本音で話せる環境を作ることが重要であると思っていま

す。私の場合、特に貴重な関係が築けたのは、ワシントンDCの米国現地事務所に駐在していた期間に、米国代表団のメンバーとしてITU世界国際電気通信会議（WCIT-12）に参加した時でした。勤務先は米国の現地法人であったものの、日本国籍を持つ自分を受け入れてくれるなんて、米国はなんてオープンで個人を尊重する国なんだろうと感動したことを覚えています。ドバイで行われたWCIT-12では主に、米国政府と日本及びアジア政府との間のリエゾン役を務めました。短い時間で大使にブリーフィングを行うなど緊張感の漂う毎日でしたが、実践を通じて国際会議のスキルが身に付いたと感じました。会合の目的であった国際電気通信規則（ITR）の改正は55か国が署名しないという結果に終わってしまいましたが、ここで米国流の進め方を肌で感じたことは大きな糧になりました。この代表団で出会ったメンバーとは今でも様々な形で交流があります。

私にとって、ITUの活動に携わることは、過去には憧れでありゴールでした。しかし、活動を続けていくうちに、多くのエキスパートの方たちのスキルと人柄に感銘を受け、今回ようやくこの分野のスタート地点に立つことができたという気がしています。SG3の今研究会期では、アンシエイトラポーターとして「モバイル金融サービス」に関する課題に取り組む予定です。チャレンジングな役割ですが、これからも世界の通信の発展に貢献できるよう、精いっぱい取り組んでいきたいと考えています。